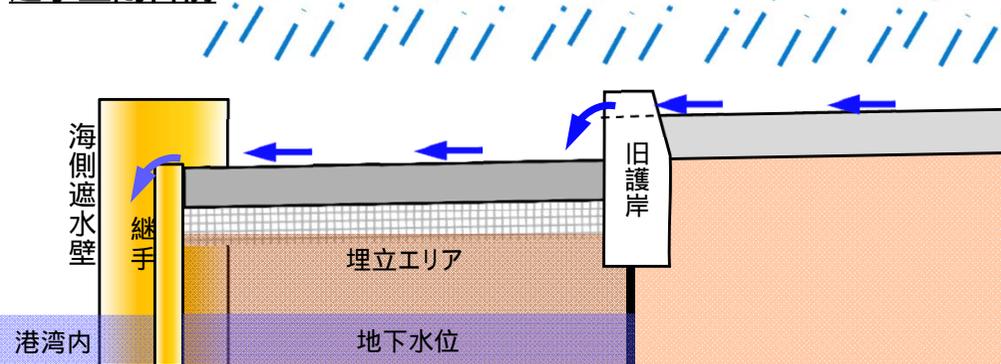


福島第一原子力発電所 海側遮水壁閉合後の埋立地舗装面等の状況について

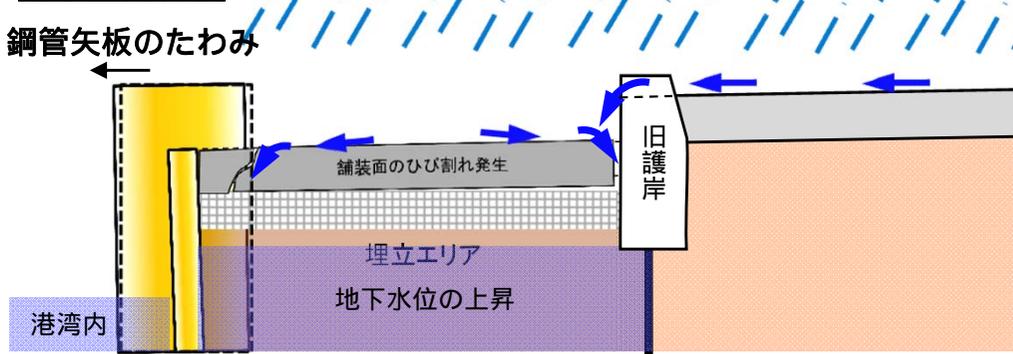
< 参考資料 >
2015年11月26日
東京電力株式会社

- 海側遮水壁閉合後、地下水位上昇に伴い鋼管矢板のたわみが増加し、舗装面の一部にひび割れ等が発生。
- 鋼管矢板は素材（金属）の特性上たわみは発生するが、鋼管矢板の健全性・遮水性能には影響しない。
- 一方、舗装面のひび割れ箇所からは雨水が入り、地下水ドレン汲み上げ量が増加しているため、急ぎ補修を進めているところ（11月末完了予定）。今後も点検を継続し、状況に応じて補修を実施していく。
- 鋼管矢板の継手にかかる負荷を軽減することを目的として杭頭を結合する鋼材を設置。特にコーナー部では大きな力が作用するため鋼材を補強中。

遮水壁閉合前



遮水壁閉合後



補修実施状況（ポリウレタ吹付箇所の一例）



コーナー部における鋼材の補強状況

埋立地舗装面等の状況（補修実施前）について



埋立地舗装面の目地の状況（補修実施前）



鋼管矢板打設際の状況（補修実施前）

※画像は、前ページの補修実施後の場所と異なります。